第24期・第1回　臨床医学委員会　放射線・臨床検査分科会　議事録

日　時：平成30年4月9日（月）　14:00～16:00
場　所：日本学術会議6階　6-C会議室（1）

出　席（14名）：青木茂樹、井上優介、遠藤啓吾、神谷研二、多湖正夫、玉木長良、橋本優子、増田しのぶ、三上芳喜、安井　弥、山下俊一、山田章吾、山田俊幸、米倉義晴（五十音順）
岩村　大（事務局）
欠　席（3名）：定藤規弘、富樫かおり、真鍋俊明

議　題

(1) 役員（委員長、副委員長、幹事）の選出について

井上優介委員長、増田しのぶ副委員長、青木茂樹幹事、多湖正夫幹事が選出された。

(2) 本分科会の活動について

井上委員長から、資料1「臨床医学委員会分科会の設置について」に基づいて本分科会の設置趣旨が説明された。また、資料2「第23期・第７回 臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会議事要旨」に基づいて、今期の分科会での検討課題についての前期における協議が紹介された。青木幹事から、本分科会の前期の提言「CT検査による医療被ばく低減に関する提言」が、平成30年度の医科診療報酬改定における画像診断管理加算3新設に貢献したことが報告された。

(3) 今後の活動方針について

今期の活動方針について自由討論が行われた。

協議に先立ち、本分科会の名称は「放射線・臨床検査分科会」であるが病理もテーマであることが確認された。

獨協医科大学感染制御・臨床検査医学講座 菱沼昭先生からの「甲状腺機能検査TSH検査値の国際標準化」に関わる本分科会への依頼について、資料に基づいて紹介された。日本甲状腺学会・日本臨床化学会・日本臨床検査医学会・日本臨床検査標準協議会の連名の厚生労働省への要望書について山田俊幸委員より説明があった。本要望書はTSH測定値に特化したものであるが、本分科会が関わる検査には標準化を要するものが多数あり、より一般的な標準化が検討対象となりえるとの意見が出された。ただし、提言をまとめる場合、メッセージを送る相手が政府なのか、国民なのか、産業界なのかを検討する必要があることが指摘された。本件については、本分科会で参考人として説明するよう菱沼先生に依頼することが合意された。

増田副委員長より、病理ではvirtual slideの活用が期待されるが、放射線画像のDICOM規格のような標準規格がなく、データの共有に問題があるとの指摘がなされた。

山田章吾委員より、放射線機器の安全管理体制の充実のためには工学系の専門家が必要で、医療機関に医学物理士がいるのが国際標準であり、我が国における医学物理士の必要性をテーマとする案が出された。この意見に関連して、医学物理士の国家資格化に関わる問題、臨床検査における精度管理の重要性、病理学会および日本臨床衛生検査技師会による認定病理検査技師制度等について議論された。専門技師認定などを通したメディカルスタッフの専門性向上や適切な業務分担が重要であるとの意見があった。

医師の業務のあり方は専門技師との業務分担とともに、人工知能AIの進歩によっても変わることが予想される。AIを補助として医師が本来の業務に専念する将来展望を示すことが望まれるとの意見があった。この目的のためにはシンポジウムの開催も考えられるが、関連学会においてAIのシンポジウムが開かれており、学術会議の共催を検討することが提案された。

山下委員より放射線防護・リスクマネジメント分科会について紹介があり、両分科会が連携することが提案された。同分科会では放射線リスクコミュニケーションを検討しており、前期には小児の放射線被ばくについて報告を公表したとのことであった。

全体の議論を通し、提言等を検討するテーマとして以下のような案が出されたことが確認され、テーマの具体化、提言対象、草稿の作成方法、その他のテーマ案について次回以降協議することになった。

- 臨床検査データの標準化（菱沼先生の話を参考に、広い問題があると考えられる場合）
- 検査データの標準化（臨床検査・病理・放射線を含む）
- メディカルスタッフの専門性（人材育成、専門技師認定体制）
- 放射線機器の安全管理体制（工学系専門家の医療機関への配置）
- 病理画像の標準化（標準規格、病院間のデータ共有、AIへの対応）

(4) 次回の分科会の日程・予定について

次回（第24期・第2回）の日程について、平成30年9月または10月の月曜日に開催することとし、平成30年10月22日（月）14:00～16:00を第1候補とすることになった。

次回の分科会では、「甲状腺機能検査TSH検査値の国際標準化」に関して菱沼先生からの説明を依頼し、参考人としての出席が困難な場合は、山田俊幸委員から説明を受けることになった。